

時津町は「家読」を推進しています

# たまには テレビをけして

ようじむ ねん はるごう  
幼児向け 2025年 春号



## うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。難しいルールは要りません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

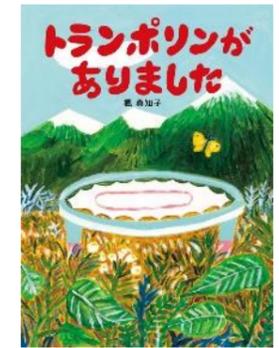
家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



しょうがくせい  
「小学生になったらともだちずかん」  
長谷川 康男/監修（ポプラ社）

はじめてのランドセル、はじめての黄色いぼうし帽子、そしてはじめてのおともだち。ドキドキ、でも、ちょっぴり不安…。あたらしいおともだち、できるかな？まずは勇気を出して「おはよう」とあいさつをしてみましょう！

4月から小学生になるみなさんへおすすめです。おうちの人とぜひ一緒に読んでください。



「トランポリンがありました」  
楓 真知子/作（絵本館）

トランポリンがありました。いちばんさいしょにポーンとうまがとびました。あさに、ゆうに、雨の日に…ポーン！いろんなどうぶつがトランポリンをとびにやってきますよ♪さいごは、それをおそらから見ていたアしが…ポーン！

家族ではずむように読んで、楽しもう♪



「だって春だもん」  
小寺 卓也/写真・文（アリス館）

ゆきが積もった、森のなか。草や木の芽、どんな小さな生きものも知っている。もうすぐ春がやって来ることを！静寂の森の中から、草花が芽吹き、動物たちが動き出す瞬間を写真でとらえた絵本。

春を待ちわびるのは、みんな一緒なのですね！



「うさぎのニコラス」  
リチャード・スキャリー/え オーレ・リソム/さく 木坂 涼/やく（好学社）

「ぼくはうさぎのニコラス このおおきなきのうろが ぼくのいえ」。ニコラスが森の中ですごす春夏秋冬を描いた絵本。色とりどりの挿絵が美しく、森の中に入り、ニコラスと一緒に一年間をすごしている気持ちになります。登場する動物や昆虫を、親子で見つけたら、数えたりしても楽しいですよ。



「いちごになりました」  
鬼頭 祈/さく（福音館書店）

いちろうくんとちいこちゃんは、庭にいちごをひとつづつ植えました。すると、すぐに芽がでて、花がさきました。その花のみつをすったちようちょは、いちごちようちょになりました。いちごちようちょを食べたさかなは、いちごさかなになって…。

家族で読んだあとには、あまーいいちごを食べたくなる絵本です。



「14ひきのぴくにつく」  
いわむら かずお/さく（童心社）

野ねずみの14ひきかぞく。天気がいい今日は、かぞくみんなで春の野原へピクニックに出かけます。春に見られるいろんなお花や虫たちにかこまれて、とっても楽しそう。

いわむらかずおさんの14ひきシリーズのなかで、いちばん春を感じる絵本です。